

人と動物 共生の道は

一写一筆

〜静岡の今

北海道や東北地方を中心に、クマの目撃情報が続いている。6月、秋田県鹿角市の山中では狭い範囲でクマに襲われたとみられる4人の遺体が見つかった。引つかれて命からがら逃げかえった人も多い。

野生動物は怖い、一方で犬や猫など、ペットの存在感は増すばかりだ。東日本大震災や熊本地震では「ペット対応型仮設住宅」の必要性も課題となった。「猫可愛がり」は大変なブームで、「ネコノミクス」なる造語も登場。年間の経済効果は「兆」単位、この試算もある。

県内で、どのくらいの大や猫がペットとして飼われているのか定かな数字は不明だが、自治体引き取られた犬猫の数字はある。県の集計（2016年3月末）だと、1年間に79匹の犬と2435匹の猫が引き取られた。一部は新

しい飼い主に引き取られるが、行き先のない犬猫の多くは殺処分される。

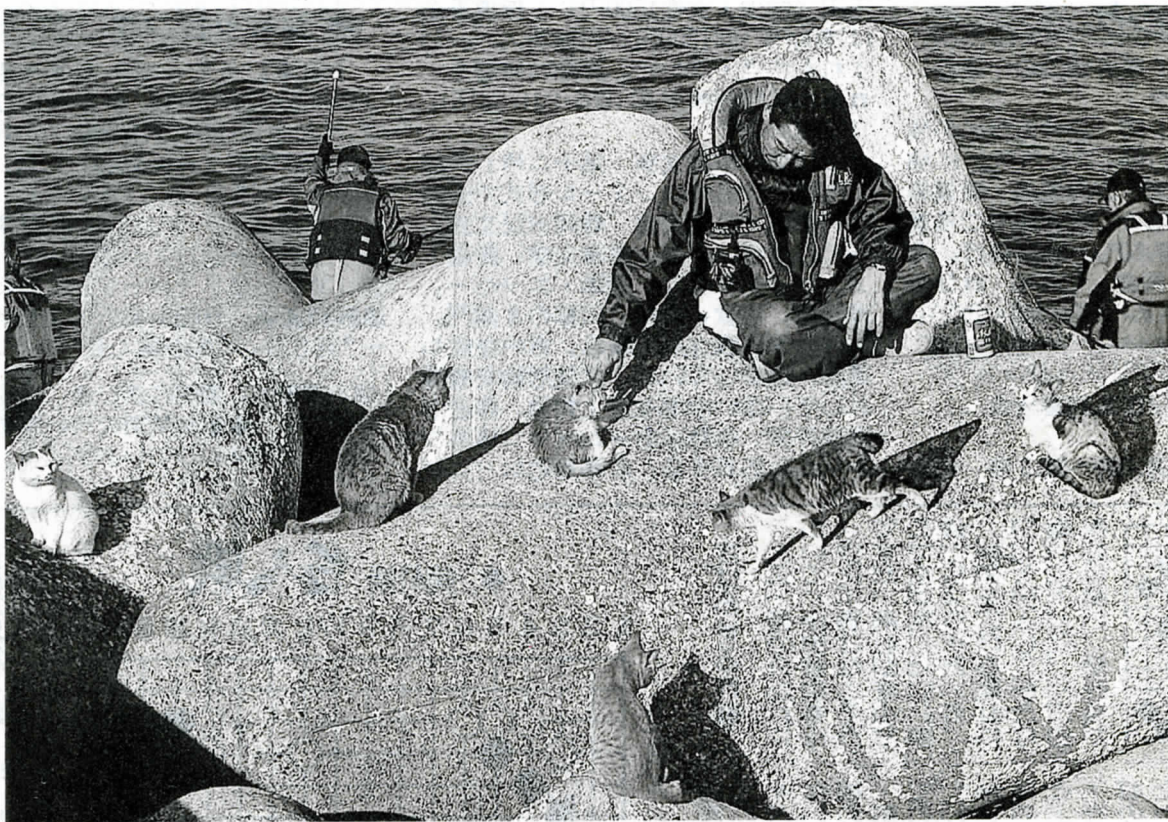
人間側からすれば、可愛がる一方で、その行動を巡って被害を訴えるケースも少なくない。「犬にかまれた」との届け出は年間で125件、「鳴き声がうるさい」「悪臭がひどい」などの苦情や相談は犬猫とも約5千件あった。

県は「人と動物との共生推進事業費」として1億3100万円（14年度）を計上し、地域や学校などで「正しい飼い方」を指導しているが、昨今の「愛猫ブーム」には戸惑いの表情だ。

猫と人間の関わりは長く、深い。日本でも平安時代、すでに宮廷貴族のペットになっていた。江戸時代には多くの絵師が浮世絵に描いた。昨今はインターネットやSNSに愛くるしい動物の動画が氾濫している。

狭い国土での自然と社会環境の中でいま、「人と動物との共生」が問われている。

（前静岡県監査委員・富永久雄）



ねこ好き——海岸にはたくさん猫が集まってくる。熱海市初島、全日写真中村勝利さん撮影